

第3回一関市教育振興基本計画検討委員会 会議録

- 1 会議名 第3回一関市教育振興基本計画検討委員会
- 2 開催日時 令和7年10月16日（木）午後2時から午後4時まで
- 3 開催場所 一関市役所花泉支所 201・202会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 塩竈素明委員、千葉敏行委員、菊地桂子委員、勝部孝行委員、菅原正浩委員、齊藤耕子委員、佐々木弘克委員、菊地ワカ子委員、岩本智美委員、八巻徹委員、森英隆委員、北村正俊委員、鈴木理香委員、鈴木宏委員
※欠席者 菅原正樹委員、千葉喜代一委員、大石敦子委員、照井教文委員、館山壮一委員、千葉真美子委員
 - (2) 事務局 時枝直樹教育長、千葉せつ子教育次長、藤倉忠光一関図書館長、佐々木修路副参事兼一関市博物館次長、氏家克典副参事兼文化財課長兼骨寺荘園室長、八木浩司副参事兼学校教育課長、小野寺和宏いきがづくり課長、千葉邦雄教育総務課長、鈴木真実教育総務課課長補佐兼教育企画係長、菅原光正教育総務課主査
- 5 内 容
 - (1) ワークショップの振り返りについて
 - (2) 骨子案について
 - ア 序論について
 - イ 総論について
 - ウ 各論について
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者 1人
- 8 時枝直樹教育長挨拶

教育の根本は「ひとづくり」であり、これは社会がどう変化しても変わらない「不易」の部分である。「流行」と「不易」のバランスを取りながら教育を推進していく。

前回のワークショップでは、専門的立場や市民の視点から多くの意見をいただき、新たな気づきを得た。本日審議いただく骨子案は、国の計画や一関市総合計画、前回の意見を踏まえ、市の教育の基本理念や目標、施策の方向性を体系的に整理したものである。この骨子案は計画全体の骨格であり、本日の議論が実効性ある計画の基礎となる。未来

を担う子どもたちと市民のため、忌憚のないご意見をお願いします。

9 勝部孝之委員長挨拶

前回のワークショップでは、未来の一関を担う「ひとづくり」について真摯で活発な議論が交わされ、教育現場の課題や未来への期待が寄せられた。

本日協議する骨子案は、これらの多様な願いや課題意識を受け止め、体系的な施策に落とし込むための「設計図の土台」である。私たちの使命は、これを確かなものにし、今後10年間の一関市の教育の「羅針盤」として結実させることであり、責任は重い。それぞれの立場から、未来の一関にとって価値ある計画となるよう、引き続き活発な議論をお願いします。

10 審議内容

(1) ワークショップの振り返りについて

事務局より資料に基づき、説明を行った。質疑応答等なし。

(2) 骨子案について

ア 序論について

事務局より資料に基づき説明を行った。質疑応答等なし。

イ 総論について

事務局より資料に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 構成について、本日ご提示いただいた各論は項目のみだが、これは今後さらに内容が詳細になるという理解でよろしいか。

事務局 本日は骨子案の審議であるため、各論については、このような項目立てで計画に掲載したいという案を提示している。次回以降の会議で、各論の具体的な中身をご検討いただく。

委員 第3章「いじめと不登校への対応」について、不登校は出現率が低いことが望ましい一方、いじめは国や県も「積極的に認知し、重大事態を防ぐ」という方針を示しており、認知件数が低いことが一概に良いとは言えないため、文章表現をご検討いただきたい。

事務局 不登校は最終的にその数を減らすことを目指すが、いじめは現在、見えにくいものを可視化し、すべてに対応することを目指している。両者の性質の違いが明確に伝わるよう、誤解の生じない表現を検討する。

委員 第3章「グローバル化への対応」について、第2章では「国際感覚を持つ人材の育成や異文化理解」や「SDGs」について言及されているが、第3章の成果と課題では英語力の部分が大きく扱われており、各論に進むにつれて異文化理解やSDGsの観点が薄れているように感じる。これからのグロ

ーバル社会に対応する子どもを育てるためには、英語力だけでは不十分ではないか。

事務局 第3章は教育委員会の事業評価という側面から記述しているため、例えば英語検定への補助事業がどうなっているか、という切り口になっている。しかし、グローバル化の本来の目的は、異文化を理解し、コミュニケーション能力を身につけることであるため、事業評価の視点と、より広い目標達成の視点のバランスを取り、記述が英語力に偏らないよう修正する。

委員 第4章の基本目標案「郷土を誇り自ら学び未来を拓く一関のひとづくり」の趣旨説明文について、最後の「新たな一関を創っていく『ひとをつくっていく』このことが一関の教育であります。」という部分の接続が少し分かりにくいと感じるため、表現を工夫してほしい。

事務局 趣旨としては「新たな一関を創っていく子どもたちや市民を育む」という意味であるため、その意図が伝わるよう表現を修正する。

ウ 各論について 事務局より資料に基づき、説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 「1-5豊かな心を育む教育の推進」と「1-6いじめ不登校への対応」の取組方針の表現について、1-5では「一人ひとりに丁寧寄り添い」、1-6では「一人ひとりに寄り添い」となっている。分野が近いので、表現を統一した方が良いのではないか。

事務局 資料の表記を確認し、修正する。

委員 「2-4図書館運営の充実」の取組方針について、「郷土資料や行政資料を計画的に収集・保存」とあるが、ここでいう「地域の歴史」とはどの時代を指すのか。また、収集・保存のための人的体制やスペースについて、どのように考えているのか。

事務局 地域の歴史については、時代を限定せず、これから刊行されるものを収集対象とする。人的体制の増員は現状では難しいが、収集対象は古文書などの一次資料ではなく、出版物などの二次的な資料、いわゆる「図書」として収集・保存することを想定している。

委員 「4-1教職員の働き方改革の推進」に関連して、最近、国が「教師の業務だが、必ずしも教師が担わなくてもよい業務」として、保護者からの苦情対応などを挙げた。これを受けて、今後の対応に何か変化はあるのか。

事務局 国から示された業務の仕分けについては、段階的に導入せざるを得ないと考えているが、保護者からの苦情対応を学校が担わないことを額面通りに受け止めると、学校と保護者の間に距離が生まれてしまう懸念もある。子ども

を預けている保護者とのやり取りは非常に重要であるため、現状では丁寧に
対応していく方針である。

委員 新設された「1－8教育DXによる教育情報化の推進」について、デジタル教科書の導入については、どのように計画に反映されるのか。

事務局 デジタル教科書については、国においてもまだ検討段階であり、導入時期や紙媒体との併用にするかなどは各自治体の判断に委ねられる方向であるが、まだ全容が見えていないため、現段階で具体的な表現を計画に盛り込むことは難しい状況である。

委員 「2－5子どもの読書活動の推進」について、素晴らしい施策である。今後、電子図書館の活用も進むかと思うが、現在の具体的な活用状況を伺いたい。

事務局 現在、電子図書館では約5,000点のコンテンツを提供しており、市民の方にご利用いただいている。この施策は図書館だけでなく、学校図書館との連携も含め、市全体で子どもの読書活動を推進していくものである。

委員 資料③の計画構成全体イメージ図について、一番上の「総論」の箱から右に伸びる矢印の先に「横断視点」「取組視点」とあるが、これはそれぞれ、資料②の「横断的重点事項」と「施策の推進にあたっての視点」を指しているという理解でよろしいか。

事務局 図の「横断視点（横断重点）」は第5章の「横断的重点事項」4点を、「取組視点（推進視点）」は第6章の「推進にあたっての視点」3軸を指している。今後、用語の統一を図り、分かりやすい資料となるよう修正する。

10 担当課 教育委員会事務局教育総務課